NIKKEI
STEAM

いっそう複雑化する社会の課題解決のためには、単一分野ではなく異分野融合の教育をより推し進めていく必要がある。「科学」「技術」「工学」「芸術」「数学」の頭文字を組み合わせた「STEAM」は今、新たな次世代人材育成の手法として注目されている。日経STEAMプロジェクトでは、大学生・高校生が企業からの課題をもとに学び、その成果として解決策や提言を発表する。プロジェクト第一号の企業はUCCホールディングス。神戸市中央区、学生・生徒たちには、答えのない課題に対して新たな発想で向き合うことが期待される。

UCCグループから受講生に伝えたこと

UCCグループの持続可能な社会をめざす取り組み

「高校生・大学生とともに考えるコーヒーの持続可能な未来」と題して、UCC STEAMゼミを開催。受講生は「温暖化が与えるコーヒー業界への影響」「生産国の課題と消費国の変化」「コーヒーの可能性」について学んだ。

SDGsにはUCCの事業活動と関連深い項目が多い。生産国が集中する南北緯25度の「コーヒーベルト」も今、気候変動影響を受けており、商業向けの大品種の一つアラビカ種が半減の危機にあることや、コーヒーの栽培を含む農業において「児童労働」が問題となっている状況も紹介された。

UCCグループでは「サステナブルビジョン」と4つの重点項目「生産国との協働」「コーヒーの価値創造」「環境活動」「責任ある事業活動」を掲げ、「カップから農園まで持続可能な活動で、コーヒー産業の発展に貢献し、世界を笑顔にすることを標榜。世界のコーヒー業界をリードする多様な取り組みを実践している。事例として、生産国の持続可能な発展を支援する「UCC品質コンテスト」やコーヒーに携わるすべての女性を応援する「IWCAウーマンズコーヒー」の取り組みを紹介した。

同社の里見執行役員は「UCCの存在はいったん置いても、コーヒー自体に教育題材として価値があると考えていた。その中で当社の取り組みも知っていただく機会になった」と振り返った。

珈琲の可能性が新たな価値創造につながる

コーヒーの価値は味わうだけではない。ダイエット・リラクス&集中、アンチエイジングなどにも有効であるという研究が進んでいる。ダイエットでは運動との組み合わせが有効で、毎日数杯飲んだとして、年間で落とせる体脂肪が！5キロに相当するという例がある。「コーヒーかす」の幅広い用途にも触れた。その高い脱臭効果や農業・畜産業での活用法、さらにはリチウムイオン電池や軽量かつ堅強で自動車などの素材として期待されるセルロースナノファイバーの材料にもなるという話も取り上げた。

高校生・大学生とともに考えるコーヒーの持続可能な未来

UCC ひと粒と、世界に、愛を × 京都女子高等学校 兵庫県立神戸高等学校 神戸女学院大学 大阪府立大学

海洋汚染など、環境問題の現状についてさまざまなお話をしてくださったことで、いろんな気づきがありました。やはり今後は、環境に配慮した製品づくりが必要だなということを改めて学びました。
【大阪府立大学 井上 恵】

アラビカ種が50%も減るというのは、すごく大きな数字なのでインパクトがありました。UCCの方に質問したところ、アラビカ種は他の品種と比べて標高が高いところで生育するので、温暖化によって育つ場所・面積が少なくなると考えられているために、そのような見立てになっていると教えていただきました。
【京都女子高校 樋本 ひかり】

「消費国の課題に取り組むのも大切ですが、それよりまず生産国の課題をひとつでも多く解決したい」というフレーズがすごく心に響きました。
【京都女子高校 尾崎 瑠菜】

温暖化で場所が減っているということは、逆に温暖化で新しく栽培できるようになった場所があるのではないかという疑問にもつながりました。
【神戸高校 大西 慶一郎】

[参加した高校生・大学生の視点]

コーヒー好きの父が、飲んだ後のコーヒーかすを玄関の靴箱に置いて消臭剤として利用しています。講義では消臭効果だけではなく、農業の肥料など広い利用法があることを知りました。ダイエット効果の話題では、体脂肪が1-5キロ減った例があるという話に驚きました。今まであまりコーヒーは飲めなかったのですが、これを機に飲んでみようと思いました。
【神戸女学院大学 久保田 華世】

アンチエイジングに関心を持つ人に対して、身近なコーヒーが効果的である可能性があるというのはすごく価値のある情報になるのではと感じました。
【神戸高校 遠藤 綾子】

学校の課題研究でカフェインの効果に絞って調べた結果、身体能力の向上にもつながる可能性を知りました。ランニングタイムの計測にも取り組んでいて「コーヒーを飲んだときのほうが速い」という結果もあるのですが「コーヒーだけが原因と特定できない点に研究の難しさを感じています。
【神戸高校 小松 陽向】

広告

ひと粒と、世界に、愛を
地球上の「誰一人として取り残さない」ことを誓う「持続可能な開発目標（SDGs）」
UCCホールディングス株式会社は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

PRESENTATION ［各チームからの提言］

KOCチーム ［神戸女学院大学／大阪府立大学］

「コーヒーお守り」で実現するCoffee+ismという新しい概念

コーヒーとコーヒーに携わる人、環境、そして自分を大切にするCoffee+ism（コヒズム）というコンセプトを提唱。それを具現化する「コーヒーお守り」の販売を提案した。利用者はまず、産地ごとに製造されたコーヒー豆入りのお守りを購入。御利益もそれぞれ異なる。お守り袋には産地の文化を反映した柄、布を用いる。中身のコーヒーを飲むことで願掛けを行い、コーヒーかすはUCCからのガイダンスに沿って再利用。残ったお守り袋は複数組み合わせてバッグに。それを返納するというサイクルを描くことで、リサイクル意識の定着を促進する。また、ネット上にプラットフォームを形成し、世界の利用者との交流も図る。

【左上から】長谷恵／林田夏菜／井上茜／山田日菜南／山口紗世／久保田華世（敬称略）

KSP'Sチーム ［京都女子高校］

コーヒー初級者にやさしいフレーバーコーヒーの開発

勉強や作業の際にコーヒーを飲む人は多いが、それでは味わいへの意識が薄れる。商品選びの基準となるはずの表示が専門的でわかりにくい。こうした問題発見に基づく提案であった。一つは「フレーバーコーヒー」の開発だ。未体験かつ新鮮なフレーバーであれば味わいへの関心が向くとともに、購入の動機づけにもなる。もう一つは表示の改善。知識のないユーザーでも商品特性を把握できるよう、「濃くない」「さっぱり」といった初心者向け表示を付ける。パッケージ色には、「さっぱり」ならそれを印象づける青などを用いることも考案。このような仕掛けを持つ「初心者向け表示付きフレーバーコーヒー」の開発を提唱した。

【左から】尾崎瑠菜／阿部明佳／武智志保／樋本ひかり（敬称略）

神珈琲チーム ［神戸高校］

コーヒーかすの堆肥利用を企業の力で広げていく仕組み

コーヒーかすを堆肥として利用する「豆エコプロジェクト」を提案した。同チームでは、近隣のホテルやカフェから集めたコーヒーかすを農家に送る活動を行う夫婦を取材し、成果の大きさを確認。そこで提案したのは、この取り組みを企業が地域を巻き込みながら推進していくことだ。企業が実施する利点に、知名度を活かして活動の規模を拡大できたり、企業がゴミ削減を通して持続可能な社会づくりに貢献できたりする点を挙げた。また、各地のゴミ収集所の隣にコーヒーかすステーションを設置すれば多くの人が参加しやすくなることや、SNSやパッケージなどを使った広報活動など、運用に関するアイデアも盛り込んだ。

【左から】戸塚優実／飯田七緒佳／西村光／石井碧葉／遠藤綾子（敬称略）

男の夢をかなえようチーム ［神戸高校］

新規層の開拓をめざし、飲むこと以外の用途でコーヒーを広める

コーヒーの新しい価値を新規層の開拓と位置づけた提案だ。高校での聞き取り調査の結果、コーヒーを好まない人の多くが苦みを要因に挙げた。そこで、コーヒーの香りを楽しめるアロマオイル、コーヒーグミなど甘さも取り入れた菓子といった、飲む用途以外の商品開発を考案。さらに、紅茶が洋菓子と一緒に味わわれるケースが多いことに着目し、「コーヒーの共」と言える食品の開拓も有効だとした。コーヒーにはダイエットやアンチエイジングを助ける効果も期待できることを今回学んだ。その周知に努めることも動機づけを与える。同時に、それがコーヒーを試す機会となり、"飲まず嫌い"を減らすことが期待できると訴えた。

【左から】大西慶一郎／小松陽向／安富輝／中尾友翼／奥土晃成（敬称略）

高校生・大学生へのメッセージ

実社会の課題と向き合う準備としてSTEAM教育の意義深さを感じた

執行役員 里見 陵

最終日のプレゼンテーションは各チームともアイデアのレベルが高く、非常に興味深く耳を傾けておりました。今回皆さんにお伝えしたかったことの一つに、現実社会における問題の困難さと複雑性があります。発表に接して、皆さんがその側面に目を向けながら思案を重ねた形跡を感じ取りました。我々の伝えたかったことが、届いていたのだと嬉しく思います。学生・生徒の皆さんが社会に出ると、その困難さと複雑性と向き合うことになるでしょう。そこで大切なのは、対象を深掘りする専門性と幅広い視野の両方を持つことです。STEAM教育はその重要性への気づきをもたらす意味で、意義深いものと実感しました。

自分事として理解できればアイデアにつながることを学べた

▼ファシリテーター
サステナビリティ推進室 顧能 千瑛

企画から携わり、進行役としても高校・大学生と一番近い立場で接しました。当初は心配もありましたが、限られた時間で皆が真剣にコーヒーと向き合い、力を合わせ、最終プレゼンでは驚くべきアイデアを発表してくれました。共に過ごして感じたのは、たとえ知らない領域でも自分事として理解できれば、泉のように皆さんにとってもコーヒーは身近な存在であることに気付き、私たちが取り組むSDGs教育の意義を再確認できました。

最終プレゼンに参加した役員

UCCホールディングス
執行役員
朝田 文彦
UCC上島珈琲
代表取締役社長

UCCホールディングス
執行役員
里見 陵
サステナビリティ推進室担当
UCC上島珈琲 取締役副社長

UCCホールディングス
執行役員
髙村 晃司
CHRO
（グループ最高人事責任者）

広告
企画・制作＝日本経済新聞社コンテンツユニット
ひと粒と、世界に、愛を
UCC サステナビリティ
UCCホールディングス株式会社 https://www.ucc.co.jp